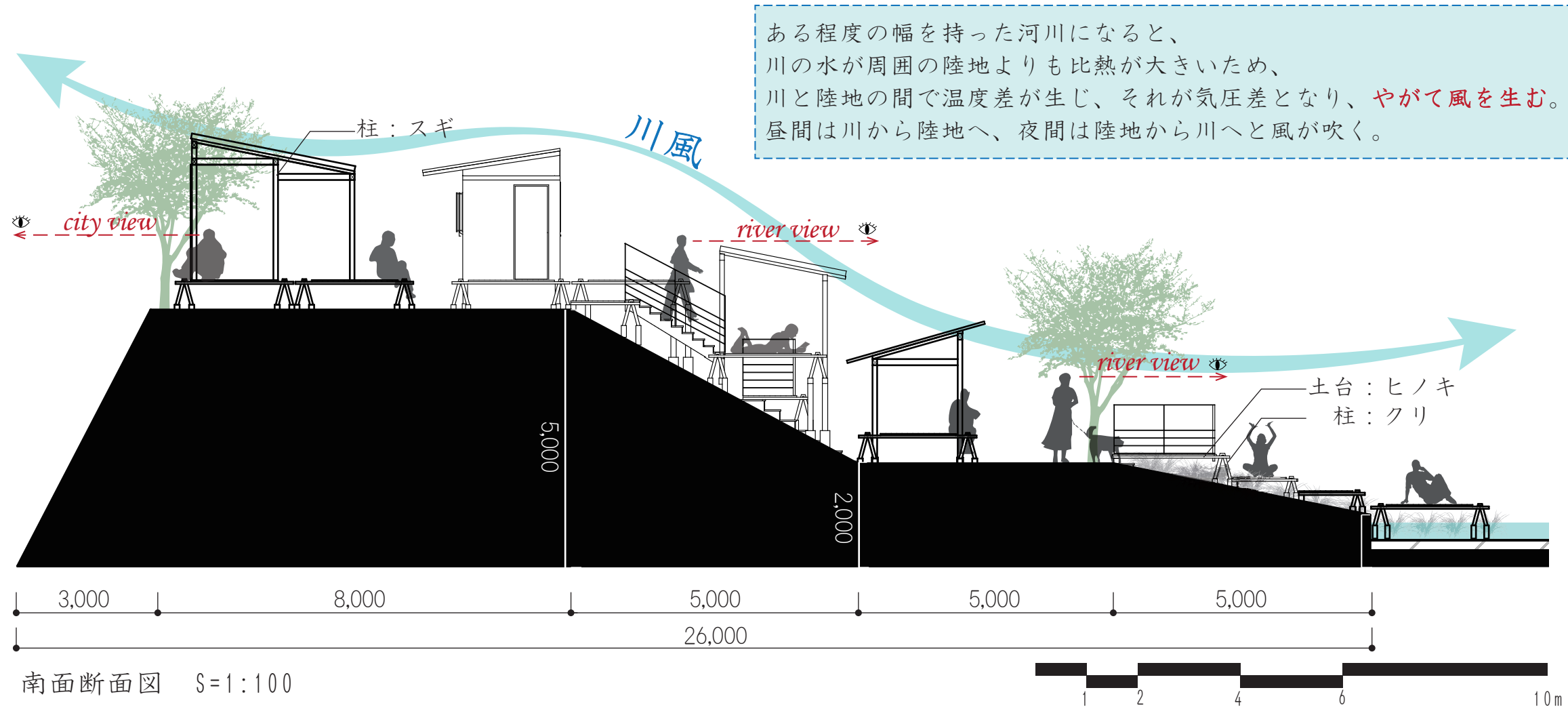


なんかええ堤防

～川風に開く広縁～



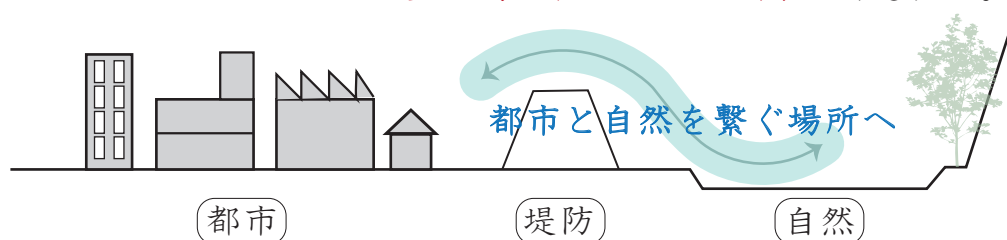
01 「間」で感じる”なんかええ”

縁側や濡れ縁といった半屋外空間は、四季の移ろいを肌で感じ、人々との緩やかな交流を生み出す、大切な【間】であり、言葉にできない“なんかええ”といった心地よさを共有する場所として機能してきた。



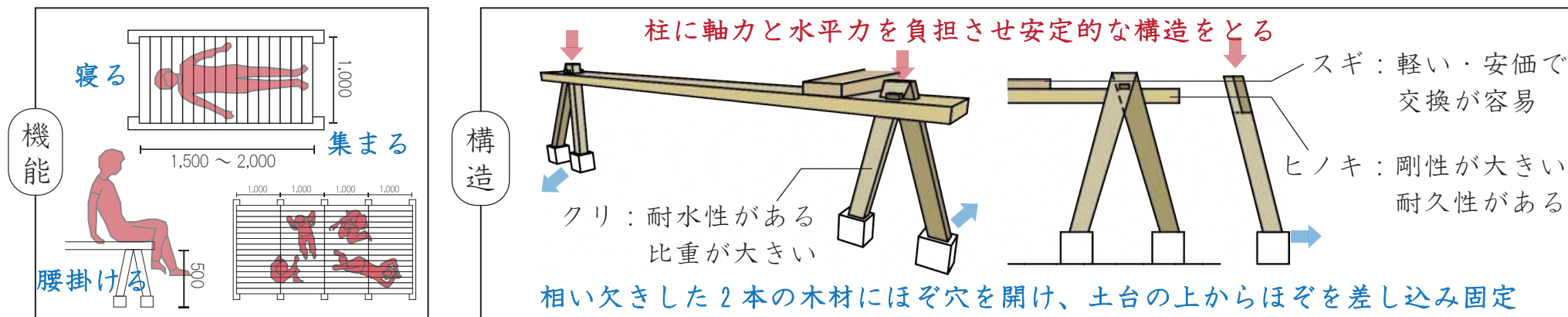
02 自然と都市の「分断」

都市は、**土木構築物**により分断されている。この隔たりを、人々が心地よいと感じる空間にすることで、新しい関係性を取り戻したい。水と共に発展してきた京都の川沿いにある無機質な堤防を、温かい木材の空間に変え、**自然と人々の生活が交わる、新しい公共空間を創造する**。



03 自然と共生する「広縁」

少し広い縁を意味する「広縁」は幅**1.5m～2m**程度である。ベンチなどの家具を超える機能を持ち、利用者の多様な活動を可能にする空間となる。広縁の構造には、日本の伝統的な知恵を活かし、満水時に流されることを許容する「**流れ橋**」の構造を継承する。



洪水時に壊れても、地域の人々が再建することで自然との共生と人々の絆を深める「再生する広縁」となる。



東面立面図 S=1:200



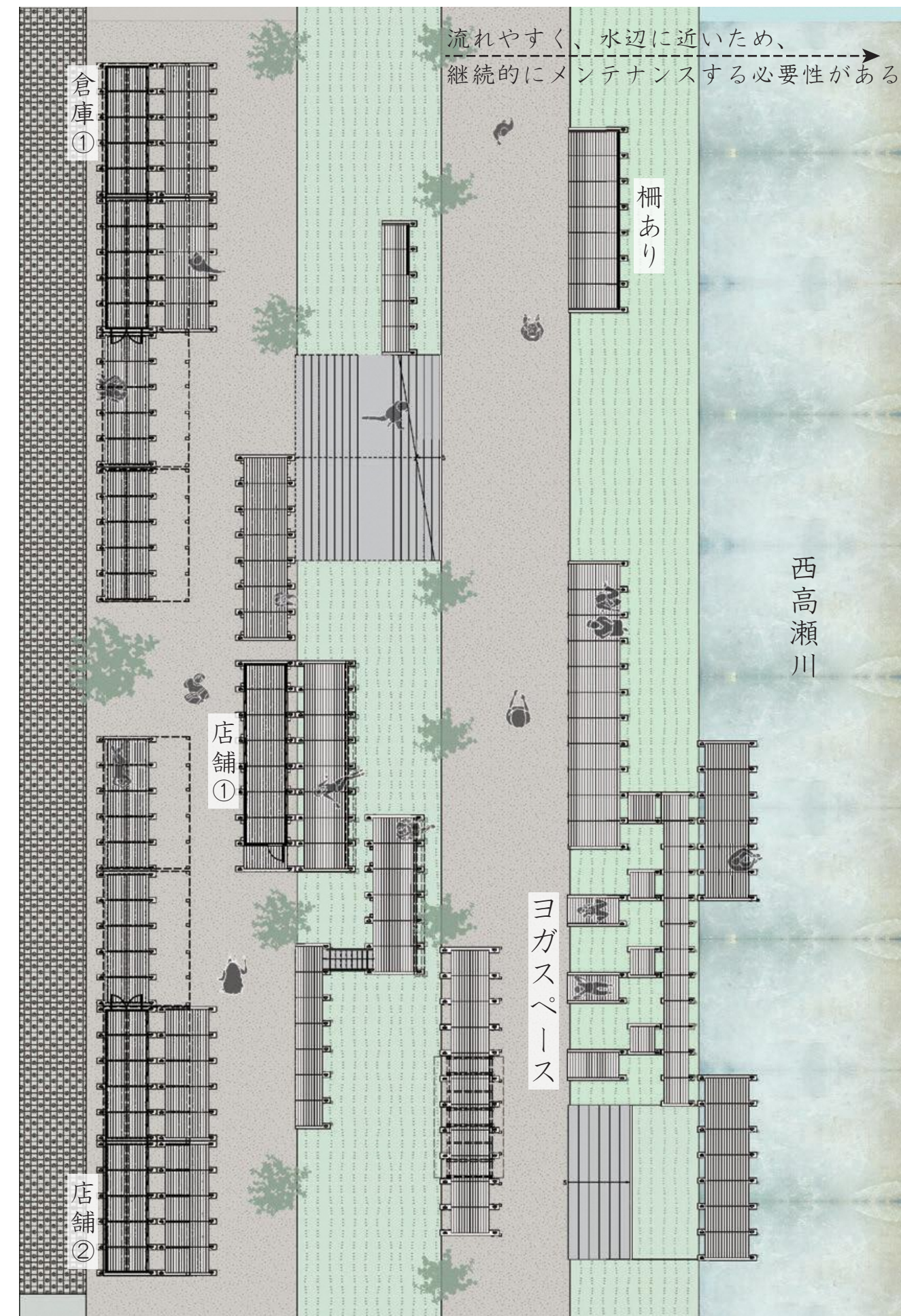
ヨガスペース



都市を眺める



自然を眺める



配置図兼平面図 S=1:200

